

2014年度
世 界 史
(問 題)

〈H26080018〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、試験開始後、解答用紙の氏名欄に氏名を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

グラックス兄弟の改革の挫折から始まる「内乱の1世紀」を抜け出した古代ローマは、前27年事実上の帝政時代に入り、その後約200年間「バックス・ローマ」と呼ばれる安定と繁栄の時代を迎えることになった。^(A) また文化も発展し、ラテン文学が花開いたのも帝政時代になってからであった。

(B) だが、五賢帝時代の末頃から国内の政治は乱れ始め、3世紀の半ばから、軍人出身の皇帝が武力により次々に帝位を篡奪する事態となった。帝国周辺ではゲルマン人がたびたびローマの領土に侵入し、東方ではササン朝が国境を脅かした。しかし3世紀末になると、ディオクレティアヌス帝が帝政の大改革を行い、以後ローマ帝国は新しい時代を迎えることになった。また、たびたび迫害を受けたキリスト教は、4世紀初めにローマ皇帝により公認され、ローマ帝国の新しい体制の支柱となっていった。^(D)

330年に東方のビザンティウムがコンスタンティノポリスと改称され首都となり、ローマ帝国の中心は東方に移った。4世紀後半のフン人の西進をきっかけとしてゲルマン人の大移動が始まると、帝国西方におけるローマの支配力はさらに低下し、395年ローマ帝国は正式に東西に分裂した。^(E) その後ローマの街がゲルマン諸部族の侵略を受けるなど、西ローマ帝国の地盤沈下はますます進み、ついに476年西ローマ帝国は皇帝が廃位に追い込まれて消滅した。以後西方はゲルマン諸国家が乱立する状況となった。^(F)

一方ゲルマン人の移動の影響を受けなかったビザンツ帝国（東ローマ帝国）はユスティニアヌス帝の時に西地中海の領土を回復し、かつてのローマ帝国のほぼ全版図を再現した。だがビザンツ帝国の領土はその時が最大で、7世紀以降アラブのイスラム勢力による侵攻を受けるようになり、11世紀にはセルジューク朝との戦いに敗れて小アジアでの領土を大幅に縮小させた。^(G)

キリスト教世界では、^(I) ビザンツ皇帝が発布した聖像禁止令を巡って、ビザンツ皇帝の保護下にあるコンスタンティノープル教会とローマ教会の対立が深まり、1054年キリスト教世界は東方正教会とローマ＝カトリック教会とに完全に分裂した。^(J)

ビザンツ帝国は、13世紀に第4回十字軍が建てたラテン帝国に領土の大半を奪われ、いったん回復したものの、14世紀半ばからのオスマン帝国の進出により領土は縮小し、ついに1453年オスマン帝国軍に敗北して、西ローマ帝国滅亡後千年の歴史に終止符をうった。

問1 下線部 (A) について、この時代に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. この時代にローマ軍駐屯地などを中心に建設された都市が、その後ウィーン、ロンドン、ベルリン、パリなどの大都市に成長した。
- b. この時代の半ばから中小土地所有農民が没落し、征服地の戦争奴隷を大量に使役して果樹栽培や牧畜を行うラティフンディアが属州にまで急速に拡大した。
- c. ローマ帝国の交易圏は季節風貿易により紅海、ペルシア湾、インド洋に拡大したが、この貿易の様子はギリシア系商人の作とされる『エリュトラウラー海案内記』に記されている。
- d. 初の属州出身皇帝となったハドリアヌス帝は帝国各地を旅して属州の整備につとめ、ブリタニアに長城を築くなど辺境防衛を重視する政策を行った。
- e. この時代にアッピア街道などの軍道の敷設が始まり、ガール水道橋やコロッセウムなど優れた土木技術を駆使した建築物が造られた。

問2 下線部 (B) について、作者名とその作品名の組み合わせが適切でないものはどれか。

- a. リヴィウス —— 『ローマ建国史』
- b. ホラティウス —— 『対比列伝』
- c. オヴィディウス —— 『転身譜』
- d. タキトゥス —— 『年代記』
- e. ヴェルギリウス —— 『農耕詩』

問3 下線部(C)について、ササン朝に関連する記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. エデッサの戦いでローマ皇帝を捕虜にした。
- b. パルティアを滅ぼして建国した。
- c. スサを首都とした。
- d. ゴロアスター教を国教とした。
- e. ウイグルと同盟してエフタルを滅ぼした。

問4 下線部(D)について、キリスト教に関連する記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. パリサイ派からキリスト教に改宗したパウロはユダヤ人以外の民族への伝道を積極的に行った。
- b. 北アフリカ出身の司教であったアウグスティヌスは『神の国』『告白』を書き、中世のスコラ学に大きな影響を与えた。
- c. イエスの神性と人性の一体性を説いたネストリウス派は431年のエフェソス公会議で異端とされた。
- d. 『新約聖書』中の『四福音書』はマタイ、マルコ、ヤコブ、ヨハネによって書かれたイエスの伝記である。
- e. 『教会史』で知られるエウセビオスは、皇帝位は神の恩寵によって与えられるという考えを示した。

問5 下線部(E)について、5世紀にアッティラが率いるフン人が本拠とした地方はどこか。

- a. ダキア b. アナトリア c. ダルマティア d. キリキア e. バンノニア

問6 下線部(F)について、ゲルマン諸国家に関連する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. ブルグンド人は5世紀初めにガリア東南部に移住してブルグンド王国を建てたが、ビザンツ帝国に滅ぼされた。
- b. フン人の支配下から脱出した東ゴート人は、5世紀初めにイタリア半島でラヴェンナを都とする東ゴート王国を建てた。
- c. ヴァンダル人は5世紀初めにイタリア半島を南下した後、テオドリック王の下でヴァンダル王国を建国したが、ビザンツ帝国に滅ぼされた。
- d. 西ゴート人は5世紀初めにガリア南部に西ゴート王国を建てた後、6世紀初めに王国をイベリア半島に移動させトレドを都とした。
- e. ガリア地方北部に住んでいたアングロ=サクソン人は5世紀半ばにブリタニアに侵入し、七王国を形成した。

問7 下線部(G)について、ユスティニアヌス帝に関連する事項として適切でないものを2つ選べ。

- a. 軍管区制・屯田兵制を実施した。
- b. トリボニアヌスに『ローマ法大全』を編纂させた。
- c. 中国の養蚕技術を導入し絹織物業を興した。
- d. コンスタンティノーブルのハギア=ソフィア聖堂を再建した。
- e. ソリドゥス金貨を基軸とする通貨制度を創設した。

問8 下線部(H)について、セルジューク朝に関連する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 建国者トゥグリル=ベクは11世紀半ばにバグダードに入城し、アッバース朝カリフから大アミールの称号を与えられた。
- b. セルジューク軍がビザンツ軍を破ったマンジケルトの戦いはトルコ人による小アジア制覇の端緒となった。
- c. 小王朝に分裂した後、13世紀半ばにホラズム朝やカラ=キタイの攻撃を受け滅亡した。
- d. 宰相ニザーム=アルムルクが始めた土地分与制度のイクター制は、その後マムルーク朝やオスマン帝国で整備され発展した。
- e. セルジューク朝に仕えたイスラーム神学者ガザリーはシーア派の立場からスンナ派神学を批判した。

問9 下線部(I)について、聖像禁止令が発布されたのは何年のことか。

- a. 726年 b. 732年 c. 751年 d. 756年 e. 774年

問10 下線部(J)について、ローマ=カトリック教会に関連する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 教会の堕落、世俗化に対する修道院の刷新運動は、6世紀初めのベネディクト派修道院の活動に始まり、11世紀以降のクリュニー修道院の改革運動をへて、13世紀には私有財産を否定するフランチェスコ修道会やシトー修道会などの托鉢修道会の活動へと展開した。
- b. ローマ教皇が神聖ローマ帝国皇帝と争った叙任権闘争は、教皇が皇帝を破門したカノッサ事件で最高潮に達したが、1122年グレゴリウス7世とハインリヒ5世との間で結ばれたヴォルムス協約により、教皇優位の妥協が成立した。
- c. 1377年まで30年に及んだ「教皇のバビロン捕囚」後にローマで教皇が選出されると、アヴィニョンにも教皇がたてられ、カトリック教会はドイツなどのローマ教皇派とフランスなどのアヴィニョン教皇派に分裂したが、コンスタンツ公会議で統一教皇が選出された。
- d. 1545年から63年までトリエント(トレント)で開かれた公会議では、カトリック教会内部の粛清、教義の再確認、異端取締の緩和、禁書目録の作成などが決議され、カトリックの再建方法が決まり、プロテスタントに対して勢力を回復する契機となった。
- e. ローマ教皇は1870年に教皇領を併合したイタリア王国と対立をつづけていたが、ムッソリーニ政権下の1929年に結ばれたラテラン(ラテラノ)条約によって和解し、ヴァチカンはローマ教皇を主権者とする独立国となった。

II 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

(A) インダス文明衰退後のインドでは、前1500年頃になるとインド=ヨーロッパ語族系のアーリヤ人がカイバル峠を越え^(B)て侵入し、パンジャブ地方に移住した。彼らは、前1000年頃にガンジス川流域に進出し、先住民と交流、混血しながら、稲作を行うようになった。前7世紀ごろには、農業や手工業が発達して商業も盛んとなり、城壁で囲まれた都市国家が形成されるようになり、こうした状況の中で新しい思想や宗教も出現した。前5世紀には、マガダ国がコーサラ国を併合して、北インド最大の勢力となり、アケメネス朝ペルシアと接触するようになった。前317年には、マガダ国の^(C)武将のチャンドラグプタがマウリヤ朝を建てた。

前2世紀初頭にマウリヤ朝が滅んでから4世紀までのインドでは政治的な分裂が続いたが、そのなかで中央アジアから西北インドを支配したクシャーナ朝が強力であった。クシャーナ朝は東西交易の要衝である^(D)に都を置き、中継ぎ貿易で栄えた。4世紀に成立したグプタ朝の時代に各種の文化が栄えた。グプタ朝が6世紀半ばに滅亡した後、北インドは混乱した。一時ヴァルダナ朝による統一をみたまもの、各地に諸王国が分立した。このため、イスラーム勢力の侵入に対抗することができず、13世紀になると、インドにイスラーム政権が誕生した。^(E)

上に述べた北インドの歴史と文化の発展の影響を受けながら、デカン高原、南インドおよびスリランカにおいても、諸王朝が建国され、海上交易を通じて栄えるものもあった。ドンソン文化やサーフィン文化が広がっていた東南アジアでは、沿岸航路による海上交易の発展の中で、港市国家も誕生するようになっていた。これを契機に、東南アジアに諸国が建国されることになるが、インド文明あるいは中国文明の影響を強く受けたものも少なくない。^(F)^(G)^(H)^(I)^(J)

問1 下線部(A)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. モエンジョ=ダーロヤクトップ=ミナールなどが代表的な遺跡である。
- b. 遺跡からは動物文様や象形文字を刻んだ多数の印章が発見されている。
- c. 遺跡には巨大な王宮があり、王権の強さがうかがわれる。
- d. 遺跡で発見される建造物は石造りであり、排水施設も整備されていた。
- e. インダス文字はほぼ解読され、当時の社会生活の様子が解明されている。

問2 下線部(B)について、この当時のアーリア人に関連する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 農耕を主とし、牧畜を従としていた。
- b. 馬に引かせる二輪戦車を用いていた。
- c. 鉄製の武器や農具を用いていた。
- d. 首長の権力はラージャンと呼ばれる部族集会の制約を受けた。
- e. 自然神への賛歌の『ヤジュル=ヴェーダ』を聖典としていた。

問3 下線部(C)に関連して、この時期の新しい思想及び宗教についての記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. 宇宙の本質や靈魂についての思索を重視するウパニシャッド哲学が生まれた。
- b. 仏教やジャイナ教などの新しい宗教の登場は、シュードラの勢力伸長を背景としていた。
- c. ヴァルダマーナを開祖とするジャイナ教が不殺生を説いた。
- d. ガウタマ=シッダールタが八正道を説いて仏教の祖となった。
- e. シヴァ神やヴィシヌ神を主神とするヒンドゥー教が優勢となった。

問4 下線部(D)について、マウリヤ朝に関する記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. マウリヤ朝はアレクサンドロス大王の軍による北西インドへの侵入を阻んだ。
- b. チャンドラグプタはマガダ国のナンダ朝から王位を奪ってマウリヤ朝を建てた。
- c. アショーカ王はカリンガ王国を征服して大帝国を築いた。
- d. カニシカ王は仏典結集を援助し、ダルマを刻んだ石柱碑を各地に建てた。
- e. マウリヤ朝は強大な軍事力を持ち徴税制度や官僚組織を整えた。

問5 空欄(E)に入る最も適切な地名はどれか。

- a. パータリプトラ b. タンタブラ c. カニヤークブジャ d. サマルカンド e. プルシャブラ

問6 下線部(F)について、グプタ朝期の文化についての記述として最も適切なものを1つ選べ。

- a. カーリダーサがパーリ語で戯曲『シャクンタラー』を著した。
- b. 仏教教学の中心となったナーランダー僧院が創建された。
- c. 戦争叙事詩である『ラーマーヤナ』がほぼ完成した。
- d. ヴァルナを否定して普遍的な規範を定めた『マヌ法典』が編纂された。
- e. ヒンドゥー寺院であるアジャンター石窟寺院が作られた。

問7 下線部(G)について、グプタ朝滅亡後イスラーム政権誕生までの期間の北インドに関連する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 唐から来た義浄はハルシャ王の保護の下に仏教を学び、帰国後に『大唐西域記』を著した。
- b. 各地にジャイナ教王国が分立し、諸王はラージプートと称した。
- c. 政治的混乱によってジャーティに動揺が生まれ、社会階層が流動化した。
- d. 民間の信仰や習俗を取り込んだ仏教から密教が生まれた。
- e. ジャイナ教を擁護するバクティ運動が盛んとなった。

問8 下線部(H)に関連して、デリー=スルタン朝についての記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. インドにおける最初のイスラーム政権はアクバルによって創始された。
- b. デリー=スルタン朝は服属するヒンドゥー教徒の既存小王朝に大幅な自治を許した。
- c. ハルジー朝は地租の金納化などの経済改革を実施した。
- d. トグルク朝はティムールの北インド侵攻により打撃を受けた。
- e. デリー=スルタン朝の最後の王朝はサイイド朝である。

問9 下線部(1)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. サータヴァーハナ朝はインド南端部を本拠とし、海上交易で栄えた。
- b. チャールキヤ朝はグプタ文化の導入に努めた。
- c. チョーラ朝ではナーガールジュナが活躍した。
- d. パーンディヤ朝はシュリーヴィジャヤに遠征した。
- e. シンハラ王国は大乘仏教の布教の中心地となった。

問10 下線部(J)との関連で、チャオプラーヤ川沿いのモン人港市国家群が連合して建てられた国で、東北タイなどにも勢力を広げたものはどれか。

- a. シャイレンドラ朝
- b. チャンパー(林邑)
- c. パガン朝
- d. カンボジア(真臘)
- e. ドヴァーラヴァティ

III 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

ウィーン会議はナポレオン戦争後のヨーロッパに安定した国際秩序を復活させることをめざして開催された。会議は難航したが、最終的にフランス革命以前の政治秩序を正統とした大国間の勢力均衡による国際秩序の維持が追求されることとなった。それはヨーロッパに広まった自由主義とナショナリズムを抑制することを目的とする保守反動的な体制の成立を意味した。

しかし、ウィーン体制は長くは続かなかった。ヨーロッパ各地で自由主義的な改革を求める運動が起こったからである。フランスではシャルル10世による反動政治が市民の蜂起を招き、1830年に七月革命が起こった。その後、産業革命が進行する中で社会は豊かになったが、その恩恵を受けることが少なかった中小資本家や労働者は選挙権が得られなかったこともあり、政府に対する不満を高めた。共和派や労働者の政治運動を政府が弾圧すると、1848年2月に再び革命が勃発した。

イギリスはウィーン体制から距離を置き、社会のさまざまな面で自由主義的な改革を進めていた。政治面で注目されるのは、選挙権の拡大である。普通選挙は実現しなかったものの、19世紀後半には政党の組織化が進み、二大政党が政権交代を行う議会政治が展開した。

19世紀を通じて、工業化が進展し、科学技術が進歩したことで都市の様相や人々の生活様式も大きく変わり、ヨーロッパ社会は著しく変化し、全体として豊かになった。しかし、その恩恵や分配を十分に受けられない労働者の反発は高まり、資本主義体制を批判する社会主義の思想が広まった。

問1 下線部(A)について、次の記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. ナポレオン法典は私有財産の禁止を定めるなど、ヨーロッパ各国の民法典の模範となった。
- b. ナポレオンによるヨーロッパ各地の征服は自由・平等の精神を普及させることになった。
- c. ナポレオンはローマ教皇と宗教協約を結び、フランスにカトリックを復活させた。
- d. ナポレオンがライン同盟をつくったことは神聖ローマ帝国の再建を意味した。
- e. ナポレオンの影響を受けて、プロイセンでは農民解放などの改革が実行された。

問2 下線部(B)について、この国際秩序に関わった国と政治家の組み合わせとして適切でないものを1つ選べ。

- a. オーストリア ———— メッテルニヒ
- b. プロイセン ———— ハルデンベルク
- c. イギリス ———— ビット
- d. フランス ———— タレーラン
- e. ロシア ———— アレクサンドル1世

問3 下線部 (C) について、ナショナリズムに関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ体制は、東ヨーロッパ、アジア、アフリカでのナショナリズムの動きを承認した。
- b. 19世紀のナショナリズムは、個性や感情を重視するロマン主義の影響を受けた民族運動という側面を持っていた。
- c. ナショナリズムは国民教育の制度化を促したが、イギリスでは1867年の教育法で初等義務教育を定めた。
- d. 世界恐慌が起ると欧米各国で経済ナショナリズムが台頭し、イギリスのスターリング=ブロックなどの経済ブロックが解体されるようになった。
- e. ナショナリズムの発展は世界の一体化を阻害し、万国郵便連合などの国際機関の設立は20世紀を待たなければならなかった。

問4 下線部 (D) について、七月革命後のヨーロッパ諸国の出来事に関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. ギリシアがオスマン帝国からの独立を求めて戦争を起こした。
- b. ロシアでは近代的な改革を求めるデカブリストの乱が起こった。
- c. ドイツでは各地の大学でブルシェンシャフトが結成された。
- d. スペインではリェーゴが中心となって立憲革命を起こした。
- e. 南ネーデルラントでは独立運動が起こり、ベルギー王国が成立した。

問5 下線部 (E) について、二月革命後のフランスに関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. ラマルティエスら共和主義者も参加した臨時政府は、言論・出版の自由などを定めた。
- b. ルイ=ブランの主張に従って国立作業場が設立されたが、プロレタリアートから反発を受けた。
- c. 男女普通選挙権が成立したが、4月に行われた選挙では社会主義勢力は惨敗した。
- d. 革命後の状況に不満を覚えた労働者は改革宴会に集って6月に蜂起したが、政府軍に鎮圧された。
- e. ナポレオン1世の甥であるルイ=ナポレオンがギゾーらを破って大統領に選出された。

問6 下線部 (F) について、次の記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. コブデンらの主張を受けて穀物法が廃止された。
- b. ベンサムが説いた構成主義が社会改革に影響を与えた。
- c. グレイ内閣の下で工場法や奴隷解放法が成立した。
- d. リストラによる古典派経済学に基づいて貿易の自由化が促進された。
- e. オコンネルらの尽力で国教徒以外にも公職につけるようになった。

問7 下線部 (G) について、第一回選挙法改正に関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 有権者が激減した腐敗選挙区が廃止された。
- b. 都市の労働者の多くに選挙権が与えられた。
- c. 選挙法の改正にはチャーティスト運動の影響が大きかった。
- d. ブルジョワジーに加えジェントリが選挙権を獲得した。
- e. 農業労働者や鉱山労働者にも選挙権が与えられた。

問8 下線部(H)について、イギリス議会政治に関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1295年にヘンリ3世が招集した議会は模範議会と呼ばれ、イギリス議会の起源と考えられている。
- b. 1628年に議会在可決した権利の請願を無視していたジェームズ1世が1640年に議会在招集したことが、史上初の近代市民革命の発端となった。
- c. 名誉革命後、ウィリアム3世とメアリ2世の下で制定された権利の章典によって、はじめて上院に対する下院の優位が決定した。
- d. ハノーヴァー朝のジョージ1世の下で議会政治を指導したホイッグ党のウォルポールが、イギリス最初の首相と言われている。
- e. ヴィクトリア女王治世下のパックス=ブリタニカの時代に、はじめて「王は君臨すれども統治せず」が確立した。

問9 下線部(I)について、19世紀のヨーロッパ社会の変化に関する記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 世界最初の通信社であるロイターがジュネーブに設立され、情報革命が起こった。
- b. オスマンは第二共和政期にバリエを全面的に改造し、近代的な都市に発展させた。
- c. トマス=クックによって近代的旅行業が創始され、庶民の娯楽としての旅行が定着した。
- d. マルコーニが発明した海底電信ケーブルがドーヴァー海峡に敷設され、世界の一体化が進んだ。
- e. コッホによる狂犬病の予防接種の成功に見られる予防医学の発展は、公衆衛生の向上に寄与した。

問10 下線部(J)について、次の記述のうち適切でないものを2つ選べ。

- a. マルクスとエンゲルスは唯物史観を唱え、科学的社会主義の立場を取った。
- b. ブルードンは労働に基づかない私有財産を非難し、一切の権威を否定した無政府主義を唱えた。
- c. フーリエはスコットランドのニューハーモニー村で協同組合的理想社会を実践した。
- d. ブランキは少数の革命家が暴力によって権力を奪取することを主張した。
- e. ラサールは1863年にドイツ社会民主党を創立し、ゴータ綱領を定めた。

IV 次の記事を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

南北アメリカ大陸への最初の「移民」は、ユーラシア大陸からのアジア人で、およそ3万年前に始まるとみられている。彼らはやがて農耕社会を形成し、神殿を中心とした都市を築き、ヨーロッパやアジアとは隔絶された世界で独自に文明を発展させていった。そして、15世紀末にコロンブスがサンサルバドル島に上陸した頃には、アステカやインカのように、高度な文明のもとで国家を形成するに至っていた。

コロンブスの到達以降、いわゆる新大陸はヨーロッパの勢力争いに巻き込まれていく。ヨーロッパ人たちは当初あくまでアジアを目指しており、新大陸を迂回するルートを探していたが、新大陸自体がもつ富に気付くにつれ、探検者は征服者に、そして事業家となって植民地開拓を推し進めた。その過程で先住民は文明を滅ぼされ、エンコミエンダ制に代表される植民地支配制度の下で強制労働を強いられた。約300年間に亘るラテンアメリカ植民地時代の幕開けである。それは同時に世界的な時代の転換点となり、ヨーロッパ社会にも様々な変化がもたらされた。

17世紀になって他のヨーロッパ諸国の侵入が活発になるまでは、植民地支配は主にスペインとポルトガルによって行われたが、次第にイベリア両国の国力が低下するに伴い、ヨーロッパ各国、特にイギリスの侵入が顕著になる。それは植民地と本国との経済的な結び付きを弱める結果となり、植民地内の市場と産業の発展を促した。こうした国際政治・経済事情の下、スペイン植民地では植民地政府に対する反乱が続発し、時には革命運動の様相を帯びた。19世紀初頭にナポレオンがイベリア半島に侵攻すると、植民地各地で独立への動きが加速し、1830年までには多くのラテンアメリカ諸国が独立を達成した。しかし政治的に独立したとはいっても、ヨーロッパ・北米諸国の影響力が弱まることはなかった。なかでもイギリスの経済的圧力は強く、独立後もラテンアメリカ諸国はイギリスに従属した。ついで19世紀末ごろから、アメリカ合衆国がカリブ海地域への干渉を始め、第一次世界大戦後にはイギリスに取って代わることになる。

問1 下線部 (A) について、次の文明・文化のうち、両方で絵文字が使用されていたとみなされている組み合わせを1つ選べ。

- a. チャビン, マヤ
- b. アステカ, ナスカ
- c. オルメカ, マヤ
- d. ワリ, アステカ
- e. ティアワナコ, インカ

問2 下線部 (B) について、次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. スペイン植民地では重労働や伝染病でインディオが激減したため、黒人奴隷で代替されたが、ポルトガル植民地では黒人奴隷の使役は禁じられていた。
- b. コルテスはメキシコ高原に栄えていたアステカ帝国を滅ぼした後、その地の総督となって植民地拡大に努め、ポトシ銀山を発見してメキシコ発展の礎を築いた。
- c. インカ帝国は現在のコロンビアからアルゼンチンに達する広大な領域を支配していたが、ピサロの率いる少数のスペイン兵に皇帝アタワルパを捕えられ、征服された。
- d. マヤ、アステカ、インカの各文明が征服者によって滅ぼされるに先立ち、パナマ地峡を横断したヴェスプッチにより太平洋が見出され、コロンブスの到達した陸地が「新大陸」であることが証明された。
- e. スペイン人たちの侵略を受けた当時、マヤ文明はその最盛期にあったが、アステカ・インカ両帝国に見られる中央集権体制はなく、大きな抵抗を示すことなく急速に滅びた。

問3 下線部 (C) について、エンコミエンダ制はインディオを「野蛮人」と位置付けることにより正当化が試みられたが、その論拠として引用された思想家はだれか。

- a. ラス＝カサス
- b. アリストテレス
- c. マキアヴェリ
- d. ディオゲネス
- e. トマス＝アキナス

問4 下線部 (D) について、16世紀の新大陸植民地開拓がもたらしたヨーロッパ世界への経済的・文化的影響に関する記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. 北イタリア都市に代わってアントウェルペン等の大西洋沿岸都市が興隆した。
- b. ベルーヤメキシコで産出された銀の流入により物価が高騰した。
- c. 交易圏が地球規模に拡大し、アジアを含めた世界の一体化が進んだ。
- d. 新世界の発見はルネサンス知識人を刺激し、近代精神の萌芽に影響した。
- e. ジャガイモやサトウキビなど、新大陸の栽培植物が広く普及した。

問5 下線部 (E) の両国の勢力圏をめぐる当時の協定について、最も適切なものを1つ選べ。

- a. スペイン・ポルトガル間で結ばれたトルデシリャス条約は、教皇の承認を得られなかったため、オランダやイギリスの新大陸進出に口実を与えた。
- b. マゼラン艦隊の世界周航の後、サラゴサ条約が結ばれ、東半球での植民地分界線がフィリピンとモルッカ諸島の間に引かれた。
- c. トルデシリャス条約に基づいてブラジルの領有権はポルトガルに認められたが、砂糖産業の確立に代表される本格的な植民は、16世紀中頃からである。
- d. 15世紀末にポルトガルが教皇子午線の変更を求めたのは、同国の遠征隊を率いたカブラルが現在のブラジルの地を発見していたためである。
- e. 最初の植民地分界線はコロンブスが新大陸に到達した年に教皇アレクサンデル6世によって設定された。

問6 下線部 (F) について、イギリスの新大陸への勢力拡大をもたらした条約や戦争として、適切でないものを1つ選べ。

- a. アミアンの和約
- b. ウェストファリア条約
- c. メシュエン条約
- d. スペイン継承戦争
- e. イギリス＝オランダ戦争

問7 下線部（G）の傾向が進む中で、次第に経済的・政治的な力を増していった社会階層として、最も適切なものを1つ選べ。

- a. メスティーソ b. エンコメンデーロ c. クリオーリョ
d. ペニンスラール e. カウディーリョ

問8 下線部（H）について、ラテンアメリカの独立運動や革命運動に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. メキシコでは、ディアス大統領の長期独裁の下で貧富の差が拡大したため、1911年に農民運動の指導者サパタはディアスを追放し、大統領に就任した。
b. 司祭イダルゴは植民地政府を非難し、奴隷解放やインディオの土地回復を提唱して蜂起し、メキシコ独立を宣言したが失敗し処刑された。
c. 奴隷解放宣言を発表して多様な支持基盤を得たシモン＝ボリバルはスペイン軍を各地で撃退し、ボリビア解放に続いてコロンビアやベネズエラを独立に導いた。
d. 奴隷制度の全面的な廃止を成果とする南北戦争に従軍したハイチ出身の黒人部隊の多くが、後に最初の黒人共和国の成立に大きく貢献した。
e. 1959年にバティスタ政権を倒したカストロは農地改革や大企業の国有化を進めたが、アメリカは新政権を承認せず、キューバ危機へと発展していった。

問9 下線部（I）について、19世紀後半のヨーロッパ・北米における変化がラテンアメリカ諸国に与えた影響に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. いち早く産業革命を経験したイギリスの勢力が強まり、南米各地にイギリスの王領植民地が築かれた。
b. ヨーロッパでの戦争において、毒ガスや飛行船が使用され始め、旧スペイン植民地を中心に軍需産業が興隆した。
c. 第二次産業革命を経たヨーロッパからの積極的投資や自由貿易を通じて、ラテンアメリカではモノカルチャー化が進行し、対外依存度が高まった。
d. フロンティア消滅の後、アメリカ合衆国は帝国主義政策を推し進めたため、アメリカ＝メキシコ戦争が勃発した。
e. ヨーロッパ人口の急激な増加を受け、移民が活性化したが、当時のヨーロッパから流出した人口の半数以上がラテンアメリカに流入している。

問10 下線部（J）について、独立後のキューバを事実上のアメリカ合衆国の保護国とした取り決めはどれか。

- a. トラテロコ条約 b. プラット条項 c. リオ協定 d. パリ条約 e. モンテビデオ条約

〔以下余白〕